

事業所名

児童発達支援事業所なかま

支援プログラム

作成日

R6

2 月

10 日

法人（事業所）理念	・未就学の子ども達が、小集団の中で、遊びを通して、「生活力」「社会性」「自己肯定感」育む。「療育」に通うことで、園や学校で楽しく生活できることを目指します。		
支援方針	・発達のゆっくりな子ども達が、日常生活に必要な、基本的動作や知識を習得し、ここに応じた支援を行います。「小さな成功体験」や子ども達の「できた！やった」という想いを大切にしながら、「自己肯定感」を育みます。他者との関わりを楽しみながら、「社会性」を育み、「自立し、生きていく」力の土台作りをサポートします。子どもたちは、遊びを通して成長や発達をします。どうせなら「楽しく遊んで、楽しく学ぶ」という想いからデジタル視覚支援ツールを用いた支援も行います。		
営業時間	8 時	30 分から	17 時 30 分まで
	送迎実施の有無	児童発達支援：送迎サービス実施あり	
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	生活リズムの改善 日常生活動作(身支度・食事マナー・更衣動作・排泄動作・物の管理)	
	運動・感覚	・運動遊び(デジリハ・トランポリン・オーシャンスウィング・平均台・はしご登り・巧技台を使ってのよじ登り・サーキット遊び・高這い・四つ這い・手押し車・ジャンプ等) ・感覚遊び(シーツブランコ・新聞紙・砂場・小麦粉粘土等) ・机上遊び(運筆、箸、トンガ、ピンチの使い方・ハサミや糊を使った制作・パズル・型はめ等)	
	認知・行動	・複数課題を組み合わせた支援プログラム(買い物遊び・短期記憶)、模倣課題(形合わせ)などの支援を通して、認知機能や注意集中機能の向上を目的とした支援を実施。 ・支援の中で、他所との関わりを通しながら、挨拶をする、ルールをも守る等、場面や相手に応じて、適切な行動を選択することが出来るように支援を実施。	
	言語 コミュニケーション	・個々に合わせて、スモールステップから大人と言葉のやり取りを楽しみ事が出来るようになったら、時系列カード等を使い、5W1Hの文章を言ってみたり、友達にも気持ちを伝えたりしながら、相手とのやりとりがスムーズにできるよう支援していく。	
	人間関係 社会性	・ルールのある遊びを通して、友達に合わせることや一緒に頑張る事を経験を重ねる。チームをすることで、協調性を身に付ける。勝ち負けが分かり、負けても次頑張る気持ちを大切にしながら、自己肯定感を高めていく。	
家族支援	・自宅や園生活での困り感や相談に対する相談対応やアドバイスをする。 ・姉弟のことも含めて、母親の子育ての負担を軽減する。	移行支援	保育園や幼稚園、保護者との情報共有 インクルージョンに向けた取り組み 地域における各関係機関との連携や移行支援シートの作成
地域支援・地域連携	保育園や幼稚園、学校、保護者との情報共有や会議 次のライフステージを見据えた関係機関との情報共有や連携	職員の質の向上	新入職員研修 スキルアップを目的とした研修 法定研修 防災や災害に関する研修 ケース検討会
主な行事等	季節に応じて、慈眼寺公園へ散策・10月(上村乗馬苑へえさやり体験・年少以下)、11月(JR体験・買い物体験・年中以上)、12月(クリスマス会・親子参加)、1月(初詣・年中以上) 2月(上村K観光農場へいちご狩り)等 保護者会(年1回)		